

埼玉サイコオンコロジー研究会 第4回研究会のご案内

がんの患者さんには、さまざまな心理的問題や精神症状、行動の異常などが起こります。これらが患者さんに強い苦痛を与え、治療とケアを妨げ、医療者やそのほかのケアギバーにとって大きな負担になることもまれではありません。また、このような問題への対応が難しいと感じることも多いと思います。そこで、がんの患者さんの心理と行動について、私たちが日常の臨床で経験している具体的な問題を取り上げ、みなで検討する機会が必要ではないかと考え、この研究会を作りました。

第4回研究会の日程、プログラムなどは以下のようになっています。医療関係者で、この問題が重要だとお考えの方、関心をお持ちの方、日常臨床で困ることが多いと感じている方にぜひご参加いただきたいと思います。なお、ご不明の点は、下記事務局までお問い合わせ下さい。

平成20年6月吉日

記

日時と場所：平成20年7月26日（土）15時から19時まで、大宮ソニックシティ国際会議場

懇親会：19時10分から

研究会参加費：1000円

懇親会参加費：不要

事前登録：不要

事務局

埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック医局内

住所：〒350-8550 川越市鴨田辻道町 1981

E-mail：psy1@saitama-med.ac.jp Tel/Fax：049-228-3605

世話人：大久保 健（さいたま赤十字病院精神科）、大西秀樹（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科）、塩井厚子（埼玉医科大学国際医療センター緩和ケア認定看護師）、仙波純一（さいたま市立病院精神科）、奈良林 至（埼玉医科大学国際医療センター緩和医療科）、堀川直史（埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック）、松下年子（埼玉医科大学保健医療学部看護学科）

共催：埼玉サイコオンコロジー研究会
大日本住友製薬（株）

プログラム

演題 1-3 15時10分-15時55分

座長 堀川直史（埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック）

演題 1 塩酸モルヒネ換算で 3000mg/日、鎮痛補助薬使用も疼痛コントロールに難渋した 1 症例（症例検討）

森川すいめい、鈴木英之、宿澤孝太、松田 実

春日部中央総合病院外科

演題 2 診断過程でうつ病を発症した乳癌患者の 1 例:主に職場復帰までの支援について（症例検討）

新井 励

筑波大学附属病院総合がん診療センター

演題 3 防衛医科大学校病院精神科リエゾン活動におけるがん患者診療の現況

桑原達郎、小川哲男、長峯正典、脇園知宜、吉野相英、野村総一郎

防衛医科大学校精神科

演題 4-6 15時55分-16時40分

座長 松下年子（埼玉医科大学保健医療学部看護学科）

演題 4 せん妄を発症した局所再発直腸癌の 1 例（症例検討）

新井夏子 1)、湯本順子 1)、蛭谷祐子 1)、橋本実果 1)、橋口律子 1)、有澤文夫 2)、齊藤 毅 2)、大久保 健 3)

さいたま赤十字病院 2-3 病棟 1)、乳腺外科 2)、心療科 3)

演題 5 認知症的症状を発症したために、予定した治療を受けることができなかった高齢の乳がん患者のケア（症例検討）

小暮三千代、田昌子

深谷赤十字病院 5 階北病棟

演題 6 小児脳脊髄腫瘍に対する包括的診療チーム multidisciplinary team による診療体制の確立とその意義：小児脳幹部腫瘍を例に

柳澤隆昭 1)、鈴木智成 1)、上宮奈穂子 1)、脇谷健司 1)、安達淳一 1)、三島一彦 1)、松谷雅生 1)、西川 亮 1)、田中竜平 2)、和田芽衣 3)、西田知美 3)、和田 信 3)、大西秀樹 3)、奈良林 至 4)、御牧由子 5)、塩井厚子 5)、山田恭

子6)、目黒滋子6)、林 律子6)、近藤めぐみ7)、玉木秀子7)

埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科小児脳脊髄腫瘍部門1)、小児腫瘍科2)、精神腫瘍科3)、緩和医療科4)、がん相談支援センター5)、がんセンター外来6)、通院治療センター7)

演題7-10 16時55分-17時55分

座長 大久保 健(さいたま赤十字病院精神科)

演題7 リエゾン精神医療における認知行動療法の実践:強い不安のみられた大腸がんの一例(症例検討)

川瀬英理、松木秀幸、樋渡豊彦、大村裕紀子、國保圭介、新井久美子、松木麻妃、内田貴光、河西正枝、藤井良隆、堀川直史

埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

演題8 先行きの見えない不安からくる攻撃的な言動を病棟スタッフが受け止めきれなかった事例(症例検討)

橋本まどか

埼玉協同病院緩和ケア認定看護師

演題9 疼痛コントロールに苦慮した胆管がん術後再発の一例:不安は疼痛を増強させるか?(症例検討)

伊東 洋1)、塩井厚子3)、和田 信2)、西田知未2)、和田芽衣2)、森田公美子3)、館林恵美4)、御牧由子5)、小勝未歩6)、大西秀樹2)、奈良林至1)

埼玉医科大学国際医療センター緩和ケアチーム 緩和医療科1)、精神腫瘍科2)、看護部3)、薬剤部4)、社会福祉士5)、栄養部6)

演題10 抑うつ状態にあるがん患者への看護介入モデルの提案:うつ状態にある患者への熟練看護師による働きかけモデルをもとに考える

大野明美、佐々木栄子、稲垣美智子

埼玉医科大学保健医療学部看護学科

特別講演 18時10分-19時

座長 奈良林 至(埼玉医科大学国際医療センター緩和医療科)

柏地区における地域がん緩和ケアの取り組み

秋月伸哉

国立がんセンター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発部